

1 単元 人物の気持ちの変化を考えて読もう 「ごんぎつね」

2 目標

- 登場人物の気持ちの変化を捉え、登場人物になりきって「ごんぎつね日記」を表現しようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 人物像や気持ちの変化が分かる叙述を引用し、それを基に想像して読むことができる。
(読むこと)
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて、登場人物の気持ちの変化を語ったり書いたりすることができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導に当たって

(1) 児童観

平成24年6月8日 (第4学年2組 27人)	
<p>○意識調査</p> <p>1 物語文を読むときに難しいと思うことは何ですか。 (複数回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物の気持ちを考えること……………20人 ・気持ちが変わった場面を見つけること……………16人 ・どんな人物かを考えること……………13人 ・大切な文を抜き出すこと……………12人 	<p>○実態調査</p> <p>1 主人公の気持ちを想像することができる叙述を引用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた……………18人 ・できない……………9人 <p>2 主人公の気持ちの変化を想像して読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十分満足……………5人 ・おおむね満足……………9人 ・十分でない……………13人

本学級の児童に、主人公の気持ちを考えさせる実態調査を行ったところ、叙述を引用して主人公の気持ちを考えることは半数以上の児童ができていたことが分かった。しかし、場面と場面を関連させて気持ちの変化を読み取っている児童は5人だけであった。また、半数以上の児童が、人物の気持ちや人物像を考えていくことが難しいととらえている。

そこで、叙述を基に登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面の移り変わりとともに変化する気持ちを場面と場面を関係付けながら、想像して読むことができるようにしていかなければならないと考える。

(2) 教材観

児童は、6月「走れ」の教材で、中心となる人物をとらえ、その人物の変容を読み取ることを学習している。それを受け、本単元では、叙述を基に登場人物の人物像や気持ちの変化を想像して読むことを学習していく。

本教材は、童話作家新美南吉氏の代表作である。ひとりぼっちの小ぎつねであるごんと、兵十との心のすれ違いが、美しい情景描写を背景に描き出された作品である。物語は大きく分けて六つのまとまりから構成されている。一から五の場面は「ごん」の視点で書かれているため、ごんの気持ちやその変化に寄り添いやすく、場面の展開に沿って人物像や気持ちの変化を想像しながら読むことの能力を育てることができるものとなっている。また、六の場面では、視点が兵十に変換されているため、最後のごんの気持ちは読者にゆだねられ、これまでの二人の関係を考えながら想像することが必要となる構成になっている。これらのことから、叙述を基に人物像や気持ちの変化を想像して読むことの学習に適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

叙述を基に想像して読むことの能力を育てていきたいと考え、本単元を貫く言語活動として、「ごんぎつね日記」を作成しようと考えた。毎時間のまとめとして「ごんぎつね日記」を書くことを通して、人物像や気持ちの変化について想像したことを表現させることで、児童が自分の考えや思いを明確にすることができるように考えた。

まず、モデル演示をし、「ごんぎつね日記」がどんなものであるかを知らせる。その上で、「ごんぎつね日記」の内容はどんなものにしていくのかを考え、学習の見通しをもつことができるようにする。次に、叙述を基に自分の経験と照らし合わせながら、登場人物と同化させたり、人物像や気持ちの変化を読み取らせたりしていく。その中で、登場人物の気持ちが大きく変化する場面を考え、その根拠となる叙述を引用させる。そこから、どのような出来事や事件があったのかを叙述を基に読み取ることができるようにする。その際、行動や会話が思ったことや考えたことを表す働きがあることに気付かせ、それを基に人物像や気持ちの変化を想像できるようにする。最後に、「ごんぎつね日記」をグループで読み合う交流をし、友達の思いや考えを知ることができるようにする。これらの学習活動を通して、叙述を基に想像して読むことの能力を育てることができるように考える。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちの変化を捉え、登場人物になりきって「ごんぎつね日記」を表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物像や気持ちの変化が分かる叙述を引用し、それを基に想像して読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて、登場人物の気持ちの変化を語ったり書いたりしている。

5 指導計画と評価計画（12時間扱い）

時	学習活動	評価規準
1	「ごんぎつね」を読んで感想を発表し、学習計画を立てる。	関 興味をもって物語を読み、感想を書こうとしている。 (発表・ワークシート)
2	「時間・場所・人物」を手掛かりに場面を分ける。	読 「時間・場所・人物」を手掛かりに場面を分けている。 (発表・ワークシート)
3	「ごんぎつね」の場面のあらすじを一文でまとめ、物語全体から気持ちの変化を見付ける。	読 物語のあらすじを捉え、気持ちが変わっていることに気付いている。 (ワークシート・交流の様子)
4	大きく変化があった場面と、その根拠となる一文を見付ける。	読 大きく変化した場面や根拠となる一文を読み取っている。 (ワークシート・交流の様子・ごんぎつね日記)
5	ごんと兵十の人物像について考える。	読 登場人物の人物像を叙述から想像して読んでいる。 (ワークシート・交流の様子・ごんぎつね日記)
6	ごんは、どんないたずらをしたのかを考える。	読 いたずらをしたごんの気持ちを叙述から想像して読んでいる。 (ワークシート・交流の様子・ごんぎつね日記)
7	ごんは、なぜ償いをしたのか、どんな償いをしたのかを考える。	読 償いをしているごんの変化を叙述から想像して読んでいる。 (ワークシート・交流の様子・ごんぎつね日記)
8	ここまでの「ごんぎつね日記」を読み返し、気持ちの変化を整理する。	読 ここまでのごんの変化をまとめている。 (交流の様子・ごんぎつね日記)
9	兵十と加助の会話を聞いたごんは、どんなことを思ったのかを考える。	読 兵十と加助の会話を聞いているごんの変化を叙述から想像して読んでいる。 (ワークシート・交流の様子・ごんぎつね日記)
10 (本時)	ぐったりと目をつぶったまうなずいたごんは、どんなことを思ったのかを考える。	読 目をつぶったまうなずいたごんの変化を叙述から想像して読んでいる。 (ワークシート・交流の様子・ごんぎつね日記)
11	物語全体を振り返り、ごんと兵十の気持ちの変化や人物像をまとめる。	読 ごんと兵十の変化をまとめている。 (心情マップ・交流の様子・ごんぎつね日記)
12	「ごんぎつね日記」をグループで読み合う。	読 日記を読み合うことで、言葉には思ったことや考えたことを表す働きがあることに気づき、友達の日記と比較しながら読むことができる。 (交流の様子・一言感想)

「ごんぎつね日記」を書こう

5 本時の学習

(1) 目標

叙述を基に、場面の状況を読み取ったり、前の場面と関係付けたりすることを通して、目をつぶったままうなずいたごんの気持ちを想像して読むことができる。

(2) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容 (◇は主な発問)	指 導 上 の 留 意 点 (※は評価)
<p>1 作品の場面構成を確認する。 ◇ 物語の構造(設定－展開－山場－結末)を確認し、あらすじを説明しましょう。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。 ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの気持ちを考えよう。</p> <p>3 ごんの気持ちを想像する。 (1) 場面を音読し、一人読みをする。 ・ 兵十のごんに対する思い ・ 前場面までとのごんの行動の違い ・ うなずいたごんの気持ち ◇ ごんを撃った兵十の思い、前場面までのごんの行動の違いをつなげながら、うなずいたごんの気持ちを想像してみよう。</p> <p>(2) 一人読みを基に、グループで交流する。 ◇ 自分で読み取ったことを基にして、ごんの気持ちについてグループの友達と話し合おう。</p> <p>4 ごんの気持ちの変化について話し合う。 ◇ ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの気持ちについて、みんなで話し合ってみよう。 ◇ 兵十に分かってもらえたごんの気持ちは「うれしい」の一言でまとめられるだろうか。</p> <p>5 「ごんぎつね日記」を書く。 ◇ これまでの出来事も思い出しながら、ごんになりきって「ごんぎつね日記」を書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらすじを説明することにより、この場面に至るまでの出来事の流れを押さえることができるようにする。 ・ 出来事の流れを押さえたことで、課題に結び付けることができるようにする。 ・ 気持ちを想像するときには、根拠となる叙述を引用して考えていくことを指示する。 ・ ワークシートは自分の読みを明確にするためのものであることを確認し、自分が分かりやすいようにまとめていくよう助言する。 ・ どんなことを読み取っていけばよいのか、観点を与えることにより、一人一人が自分なりの考えをもつことができるようにする。 ・ ごんの気持ちを考えさせるために、兵十の思いの変化も関連させながら読み取っていくようにする。 ・ 友達との話合いの中で、新たに気付いたことや考えたことなどは、書き加えていくように指示する。 ・ 友達の意見の中で疑問に思ったことがある場合は、対話しながら解決していくことが重要であることに気付けるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>叙述を基に、場面の状況を読み取ったり、前の場面と関係付けたりしながら、目をつぶったままうなずいたごんの気持ちを想像し読んでいる。 (読 ワークシート・交流の様子)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読みの中心となる二つの叙述を板書し、ごんと兵十の気持ちを関連させながら話し合うことができるようにする。 ・ 最後の場面だけではなく、物語全体に目が向くように、最初に確認した出来事の流れを常に意識させるようにする。 ・ 栗を届けていたことがつぐないの気持ちだけではないということに気付かせることで、ごんの兵十に対する思いを考えることができるようにする。 ・ 「兵十に気付いてもらえたごんの気持ちは、うれしかっただけなのか」と問いかけることで、うれしさ以外の気持ちも想像させ、児童の読みを広げられるようにする。 ・ 場面と場面を関係付け、物語全体を振り返った「ごんぎつね日記」を書くようにする。